

小論文

出題傾向

解答時間は 60 分。2021 年度は、設問は二つであった。この傾向は一昨年とも大きく変わることはなかった。なお出典は、朝日新聞の社説余滴、村山知博「チョウたちは静かに訴える」からであった。まず、設問一は読解問題で、100 字程度で記述することが求められていた。そして設問二では、傍線部が「どのようなことを指すか。また、そうならないためにどうすれば良いか。あなたの考えを 600 字程度で述べなさい」という問いが設定されていた。まず、「どのようなことを指すか」という問いに関しては設問一と同様、読解問題にあたるが、「そうならないためにどうすれば良いか」という問いに関しては、単に自分の考えだけを述べても不十分で、その前提として、与えられた文章がきちんと読めているか、ということも問われていることを忘れてはならない。自分の意見を書く練習だけでなく、文章をしっかり理解する練習も重ねておきたい。

学習アドバイス

小論文では様々な問い方が可能であるため、毎年同じ問題が出題されるとは限らないが、2021 年度の設問一では現代文と同様、本文の理解ができているかが問われていた。こうした読解力を試す問題は小論文でも頻出の問題であるので、本文をしっかり理解するという姿勢を忘れてはならない。上述の出題傾向をくり返し伝えることになるが、小論文だからといって自分の考えだけを述べる問題が出題されるとは限らず、本文の正確な理解を求める問題が出題されることもある。小論文は受験生の総合的な学力を問う科目であるため、様々な問題を解いておくことが望ましい。

次に設問二であるが、こちらは小論文における定番の問題で、自分の考えを述べる問題であった。2021 年度は、本文の内容を踏まえて書く必要があったが、どんなテーマであっても書くことができるように、日頃からニュースや新聞に触れるようにしておきたい。なお、課題文がある場合は課題文を参考にして書くことは可能であるが、できる限りで構わないので、本文と違う具体例や視点をを用いて記述することも忘れないでおきたい。

以上をまとめておくと、小論文では読解問題も含めて様々な問題が出題されるとはいえ、自分の意見を書く問題の方が配点は高いため、日頃からニュースや新聞に触れ、自分の意見を持つようにしておきたいということである。ただ、その際に「複数の視点をもつ」ことを勧めておく。1 社の新聞を読んだなら、他社の新聞ではどのように書かれているか確認してみるといい。これも毎日は大変なので、大きな事件やトピックの際に、複数読んでおくようにするだけでも効果はある。記述形式の読解問題も含めて、本番までに多くの問題を解いておきたい。